

40. ばれいしょ

・殺菌剤

| FRAC コード | 薬剤名 | 使用方法 | 使用時期 | 使用回数 | 備考 |
|-------------|----------------------|---------------------------------|------------|--------|----|
| M1 | (銅水和剤) Zボルドー | 散布 | - | - | |
| | ドイツボルドーA | 散布 | - | - | |
| M3 | エムダイファー水和剤 | 散布 | 収穫 14 日前まで | 7 回以内 | |
| 27+M3 | カーゼートPZ水和剤 | 散布 | 収穫 7 日前まで | 4 回以内 | |
| M3 | (マンゼブ) ジマンダイセン水和剤 | 散布 | 収穫 7 日前まで | 10 回以内 | |
| | ペンコゼブ水和剤 | 散布 | 収穫 7 日前まで | | |
| 7 | バンタック水和剤 7 5 | 5~20 秒間種いも浸漬 | 植付前又は貯蔵前 | 1 回 | |
| | バンタック粉剤 | 種いも粉衣 | 植付前 | | |
| 29 | フロンサイド水和剤 | 散布 | 収穫 14 日前まで | 4 回以内 | |
| 27+11 | ホライズンドライフロアブル | 散布 | 収穫 14 日前まで | 4 回以内 | |
| 21 | ランマンフロアブル | 散布 | 収穫 7 日前まで | 4 回以内 | |
| M1 | 硫酸銅 | ホルト [®] -液を調製して均一に散布する | - | - | |

・殺菌剤 (参考農薬)

| FRAC コード | 薬剤名 | 使用方法 | 使用時期 | 使用回数 | 備考 |
|-------------|--------------------|---|----------------|------|----|
| 41+25 | アグリマイシン-100 | 5~10 秒間種いも浸漬 | 植付前 | 1 回 | |
| | | 種いも散布 | | | |
| 25 | アグレプト水和剤 | 5~10 秒間種いも浸漬 | 植付前 | 1 回 | |
| 31+24 | カセット水和剤 | 種いも瞬間浸漬 | 植付前 | 1 回 | |
| M1 | (銅水和剤) コサイド3000 | 散布 | - | - | |
| 36 | スキャブロックSC | 種いも瞬間浸漬 | 植付前 | 1 回 | |
| - | ソイリーン | 耕起整地後、30cm 間隔のホリ状に深さ約 15cm に所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。 | 作付の 10~15 日前まで | 1 回 | |
| 36 | ネビジン粉剤 | 作条土壌混和 | 植付時 | 1 回 | |
| | | 全面土壌混和 | | | |
| 29 | フロンサイド粉剤 | 全面土壌混和 | 植付前 | 1 回 | |
| M3+4 | リドミルゴールドMZ | 散布 | 収穫 30 日前まで | 1 回 | |

・殺虫剤

| IRAC コード | 薬剤名 | 使用方法 | 使用時期 | 使用回数 | 備考 |
|-------------|----------------------|------|------------|-------|----|
| 3 | アディオオン乳剤 | 散布 | 収穫 14 日前まで | 4 回以内 | |
| 4 | アドマイヤー水和剤 | 散布 | 収穫 14 日前まで | 2 回以内 | |
| 1 | (アセフェート) オルトラン水和剤 | 散布 | 収穫 30 日前まで | 2 回以内 | |
| | ジェイエース水溶剤 | 散布 | 収穫 30 日前まで | 2 回以内 | |
| 1 | ダイアジノン水和剤 3 4 | 散布 | 収穫 7 日前まで | 3 回以内 | |

| IRAC コード | 薬剤名 | 使用方法 | 使用時期 | 使用回数 | 備考 |
|-------------|-----------|------|----------|------|----|
| 3 | テルスター水和剤 | 散布 | 収穫3日前まで | 4回以内 | |
| 4 | ベストガード水溶剤 | 散布 | 収穫14日前まで | 4回以内 | |

- 注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決められているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。
- 注2) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける（「薬剤抵抗性管理」参照）
- 注3) 蚕毒・魚毒については、「56. 野菜類の総括注意」も参照する。

病害虫名（F：菌類病、B：細菌病、V：ウイルス病、O：その他の病原体）

| 病害虫名 | 防除時期 | 防 除 方 法 | 注 意 事 項 |
|-------------|--------|--|--|
| そうか病 (O) | 植付前 | 1. 種いもは、無病いもを用いる。 [参考農薬] 1. 土壌処理剤 (1) ネビジン粉剤を10a当り60kg全面土壌混和するか、10a当り30kg作条土壌混和する。 (2) フロンサイド粉剤を10a当り30～40kg全面土壌混和する。 (3) ソイリーンを10a当り300（1穴当たり3ml）を30cm間隔で千鳥状に深さ約15cmに注入して、直ちに覆土し、ポリエチレン、又はビニール等で被覆する。 2. 種いも処理 (1) アグリマイシン100の40～100倍液に5～10秒間種いもを浸漬するか、種いも100kg当り2.5～30を散布する。 (2) アグレプト水和剤60～100倍液に5～10秒間種いもを浸漬する。 (3) カセット水和剤30倍液、スキャブロックSCの50倍液のいずれかに種いもを瞬間浸漬する。 | 1. 連作すると発生が増加する。 2. 浸漬処理後は、いもを十分乾燥させる。 3. ネビジンは、植付時の処理とする。 4. フロンサイドは、人によってかぶれることがあるので、かぶれやすい人は使用しない。 |
| 黒あざ病 (F) | 植付前 | 1. 種いもは、無病いもを用いる。 2. 輪作する。 3. バシタック水和剤75の70倍液に、種いもを5～20秒間浸漬するか、バシタック粉剤を種いも重量の0.3%粉衣する。 | 1. 浸漬処理後は、いもを十分乾燥させる。 2. 粉衣処理は、乾燥した種いもに行う。切断前を原則とする。 |
| 疫 病 (F) | 開花期を中心 | 1. 4-4式ボルドー液、エムダイファー水和剤、Zボルドーの400倍液、ドイツボルドーAの400～600倍液、マンゼブ剤（ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤）600倍液、カーゼートPZ水和剤800倍液、ホライズンドライフロアブル1,500倍液、ランマンフロアブル1,000～2,000倍液、フロンサイド水和剤2,000倍液のいずれかを散布する。 [参考農薬] 1. コサイド3000、又はリドミルゴールドMZの1,000倍液を散布する。 | 1. 開花始め、開花中、開花終りの3回以上散布する（葉裏によく散布する）。 2. 降雨直前の散布は、防除効果が高い。 3. フロンサイドは、人によってかぶれることがあるので、かぶれやすい人は使用しない。 4. ホライズンは魚毒に注意する。 |

| 病害虫名 | 防除時期 | 防 除 方 法 | 注 意 事 項 |
|--------------------|----------------|---|---|
| アブラムシ類 (ウイルス媒介) | 植 付 時 | 1. 無病種いもを用いる。 | 1. 原種、採種ほでは、アブラムシ防除を徹底する。 2. ウイルス罹病株は、タバコ黄斑えそ病の発生源になる。 3. テルスターは蚕毒及び魚毒に、アドマイヤーは蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。 |
| | 生 育 期 間 | 1. 発病株は抜き捨てる。 2. アドマイヤー水和剤 1,000 倍液、アセフェート (オルトラン水和剤、ジェイエース水溶剤)、テルスター水和剤の 1,500 倍液、ベストガード水溶剤 2,000 倍液のいずれかを散布する。 | |
| テントウムシ ダマシ | 開 花 期 を 中 心 | 1. ダイアジノン水和剤 3 4、アディオソ乳剤の 2,000 倍液のいずれかを散布する。 | 1. 孵化最盛期は平坦地では6月上旬、山間高冷地は6月下旬である。この時期に1回の防除で効果が上がるよう葉裏に十分散布する。 2. アディオソは蚕毒及び魚毒に、ダイアジノンは魚毒に特に注意する(特別指導事項参照)。 |
| ヨトウムシ (ヨトウガ) | 7月下旬～ 8月上旬 | 1. オルトラン水和剤 1,000 倍液を散布する。 | 1. オルトランの使用時期は収穫 30 日前までのため、特に注意する。 |